

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493400202	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年10月1日
法人名	(株)エイジサービス		
事業所名	グループホームせや別荘		
所在地	(246-0035) 横浜市瀬谷区下瀬谷2-25-16		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果 市町村受理日	令和4年3月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「家庭的でのんびり落ち着いた、笑顔あふれるホーム」を目標指針に入居者様の思いに寄り添いその人らしさを大切にしています。コロナ禍でも、感染対策を十分に取しながら出来る事は何か、入居者様の思いや希望を尊重した支援を心がけています。窓からは南台の緑が広がり、四季折々の緑を楽しめます。鶯や鈴虫の音が聞こえる自然豊かな立地に面している別荘風の建物です。西側には大きなデッキもあり、さわやかな風を感じながらランチを食べたり、お茶を楽しむこともあります。毎日の散歩を楽しみにしている入居者様もおり、近隣の方が優しく声をかけてくださり、交流を通して一人ひとりが地域の一員として尊重される心安らぐ環境づくりを目指しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年12月7日	評価機関 評価決定日	令和4年1月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、相鉄線「瀬谷」駅から徒歩18分、または相鉄線「三ツ境」駅からバスで「椰の木石碑前」下車、停歩3分程の緑豊かな住宅地の中にあります。近隣には自然豊かな森林公園があり別荘風なたたずまいの建物です。法人は横浜に4ヶ所、東京に1ヶ所のグループホームを運営しています。

<優れている点>

「安心して暮らせる もう一つの我が家」をコンセプトとして、本人が望む生活に寄り添い、本人が出来ることを大切に支援しています。介護計画作成に当たっては、本人の言葉そのままを計画書に記載し作成するよう努めています。思いや希望を話す事ができない入居者は、何度も話される言葉や行動などから本人の思いを汲み取っています。食事は、自分で料理を取りに行き食卓に並べます。自宅から使い慣れた箸・茶碗・味噌汁椀・湯呑を持参し使っています。バイキング料理の時は好きな料理や果物を自分で選ぶことを楽しんでいます。各フロア9人の入居者に対し日中は基本3人の職員が支援して、雨の日以外は毎日散歩に出かけています。誕生日は本人の希望を叶える日、大きな寿司桶で食べる希望を叶えた人もいます。

<工夫点>

コロナ禍では家族との関係が薄れてしまいましたが、職員は入居者に家族のことを尋ねたり話題にし、忘れないよう支援しています。毎月の「入居者だより」では、それぞれ担当する職員が家族宛に便りを書いて届けています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームせや別荘
ユニット名	つる

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は事業所の各所に掲示しており、スタッフは常に確認することができます。法人理念とは別に、より具体的で誰もが取り組める内容で職員が共有できるように努めています。	事業所独自の目標方針を掲げ入居者支援に取り組んでいます。2年前職員全員で新たな方針を話し合い、9年前に職員が参加して作った方針「家庭的でのんびり落ち着いた笑顔あふれるホームを目指します」を継続して方針としています。家庭的・笑顔を大事に支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し年間の行事に参加させて頂いています。また散歩や外出時にご近所の方と気軽に挨拶、会話を交わしています。	自治会に参加しています。餅つきや秋祭りの歌や踊り、和太鼓などを楽しんでいます。小学校の文化祭に入居者の作品を展示するなど交流しています。今年では中止になりました。ハロウィンでは仮装した子どもたちが訪ねて来てくれて、窓越しにお菓子をプレゼントしています。	近隣の住宅地は30年以上経過しています。世代交代が進み事業所開設時の住民が減少しています。地域での自治会等と連携した、認知症の啓発活動や相談支援活動の実施が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で運営推進会議での集まりはないが、活動報告や事故報告等の書面を自治会にもお送りし、情報提供しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	令和3年度もコロナ禍で運営推進会議は書面開催のみとしています。ご家族や地域からのご意見や要望も記載してサービス向上に役立っています。	コロナ禍の為、書面会議で隔月実施しています。自治会長や区役所職員、地域包括支援センター職員、家族が参加し、活動報告や地域の行事連絡など意見交換しています。コロナ禍での家族との面会の進め方などを相談しアドバイスをもらい交流を繋げています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	通常、地域密着型サービス連絡会や瀬谷区の講習会、運営推進会議等で情報共有をしていましたが、現在はコロナ感染予防の為、中止しています。必要な事項はメールにて行っています。	瀬谷区高齢支援課職員とは電話で相談や報告をしています。今年はコロナ禍で中止となっていますが、区主催の研修では、虐待防止や感染症対策等を受講しています。瀬谷区地域密着型サービス事業所連絡会は、事例発表などを相互に実施し、研鑽してきましたが現在は休止しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	事業所で内部研修を実施し、職員に周知しています。玄関、フロアの出入り口に関しては、事業所前の環境などを鑑みてご家族の了解を得ています。	身体拘束適正化委員会はユニット会議で隔月実施しています。職員はチェックシートで自己確認をしています。道路沿いの立地であり、安全のため施錠していますが、帰宅願望に応え散歩に出かけます。夜勤担当者の働き方にも注意し、声がけの仕方等、管理者が気づいた都度、朝・夕、話をして指導しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ユニット会議にて身体拘束、虐待のチェックシートを用いて内部研修を実施しています。職員同士、気づきができる関係性に努めています。	身体拘束適正化委員会と共に、虐待防止委員会を実施しています。自己点検シートでチェックし、ユニット会議で意見交換して理解度を高めています。利用者のあざはどんな細かいあざであつても記録し、利用者本人がつくった打痕跡もチェックしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	関連した内容を調べ、その内容をユニット会議で説明し、職員が理解できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に至るまでは代表者、管理者、ケアマネージャーを踏まえ説明をし、施設内を見学していただいています。ご家族との十分な話し合いのもと納得したうえで契約をしていただいています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族より意見要望がある場合は、意見箱への投函、若しくは、メールでの受付をしています。その内容は、ユニット会議や専用ノートにて職員が共有できるようにしています。	コロナ禍で家族との面会が制限されていますが、現在は玄関脇の窓越しにイスに座り、携帯電話で会話しています。聴こえづらい入居者とはスケッチブックで筆談もしています。入居者からは食事のリクエストなどがあり、大きな寿司桶に入った握り寿司の希望を叶えた事例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のユニット会議を開催し話し合う場を作り、それを管理者がまとめ代表者へ伝えています。	毎月のユニット会議で職員と話し合っています。会議では毎回3人のモニタリングを実施し、介護について職員の提案を受けています。毎月の「入居者だより」を職員が毎月交代で各入居者を担当して、入居者の生活の様子を各職員が観察し家族に報告します。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人ひとりの努力、実績また、事業所内の状況を把握し職場環境・条件の向上に努めています。	定着率が高い職場となっています。家庭的・笑顔をキーワードとして、明るい職場風土になるよう努めています。残業などはしっかり周りに宣言して、実施しています。幼児・学童のいる職員は勤務シフトを日勤のみに変更するなど職場環境に配慮しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員のスキルアップの為、研修費や資格取得の受講料を負担しています。研修内容はユニット会議で報告し共有しています。	認知症介護実践者研修を始めとして、実務者研修等、職員のスキルアップを支援しています。研修受講に際しては受講料等のサポートや合格者支援の制度があり、休日を調整し協力しています。瀬谷区地域密着型サービス事業所連絡会では研修や事例発表等で交流しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ過により同業者と交流する機会はないが、インターネットなどを活用し情報収集しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	フェイスシートや基本情報、ご家族からの話をもとに本人が安心して生活できるようなケアに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族や本人の要望など傾聴することを心がけ、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族と本人の思いなどを確認し、必要としている支援を見極め、信頼関係を築いて行くよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事やレクリエーションなど出来ることは参加していただけるよう考えています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ過で面会も制限されている中、面談時に対策を講じながら楽しい時間を過ごしていただけるよう支援しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	散歩などでご近所の方に会った場合は挨拶やコミュニケーションが取れるよう支援に努めています。	散歩時の挨拶などのコミュニケーションを大切にし、近隣の商店との関係を継続しています。来訪した親戚とも窓越しで面会ができるよう支援しています。誕生日には本人の希望を聞き「電車に乗りたい」「かき氷が食べたい」など、叶えられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立してしまう入居者様には声かけなど工夫をして共に過ごせるよう、入居者同士が自然と支え合えるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了であっても家族より相談などあれば必要に応じて支援しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一番楽しみなご家族との面会が、ガラス越しで、もどかしい思いをされていたと思います。電話での連絡、時節のハガキのやり取り等で家族との絆を感じて頂いていました。	入居前に自宅を訪問し、本人の生活歴や、家族、自室の様子を聞きとります。嗜好、趣味や現在の行きつけの店、本人が得意だったこと、できる事も確認し、施設でも継続できるように支援しています。日々の支援から、本人の意向をさらに汲み取っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居されて皆様長くなっていらっしゃるの、入居前の暮らし方は現在の生活に溶け込んでいらっしゃいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出来る事シートは、縮小し必要なことだけにし、職員も取り組みやすくしました。月1回のユニット会議で状態の変化を確認し、やりすぎない、やらなさすぎない介助を目指しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のユニット会議で改善する課題は話し合います。又すぐに行っていく方がいい課題などは当日の職員でのショートカンファで決め、申し送りノートで周知してもらい、計画書にプランとして挙げていきます。	本人の思いや暮らしの希望を話す事ができない意思相通が困難な人にも、本人が何度も話す言葉や、よく行う行動から本人の思いを汲み取っています。ショートカンファレンスやユニット会議など、職員間でも情報を共有して介護計画を作成、モニタリングも行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の記録は出勤したケアワーカーが目を通し、分からないことは聞きながら情報を理解し共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の体調を考慮し、往診日でなくても医療へ報告し往診が受けられます。本人や家族の状況を把握し、入退院や特養のご案内等、出来る限りの支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源は近隣の公園を散歩に使わせて頂いています。コロナ禍で催し物がすべて中止になっている中、近隣住宅地の公園は欠かせない毎日の散歩で歩行の筋力低下防止にとも役立っています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	7月から訪問診療クリニックが代わりましたが、システムがきちんと出来上がっている医療法人なので、移行もスムーズに出来、適切な医療もスムーズに受けられています。	内科は月に2回、皮膚科、精神科の医師もおおり、必要に応じて受診しています。歯科は週に1回、眼科は2ヶ月に1回の往診もあり、看護師も毎週来訪して主治医に報告しています。緊急時の受け入れ病院とも連携し、職員間での情報共有もできています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師、クリニックの看護師共に報告し、情報共有できるようにしています。クリニックの看護師には時間外でも連絡ができ、必要なら医師に連絡して適切な判断と指示を仰げるようになっていきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院については職員が付き添います。その後はコロナ感染予防のため、病院側で面会中止となっていて、入院中の様子、リハビリの様子などは退院が決まってから1度だけ病院から呼ばれて行きました。他は電話連絡となっています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ホームでは現在面会はガラス越しで行っています。終末期の在り方はご家族と話し合い事前に面会の連絡を頂き出来る限りの感染予防対策をして頂いてから、大切な時間を居室で過ごして頂くようにしています。	入居時に「終末期医療・重度化した場合における看取りの方針」について、入居者と家族へ説明し、同意を得ています。看取りが近くなった場合は、医師、看護師、家族、職員が今後の方針を話し合い、方針を共有しながらチーム支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生に備えたマニュアル、緊急連絡網は目に付くところに掲示し、職員に緊急時の対応についてを周知しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、防災訓練を実施しています。消防署職員に立ち会っていただき指導を受けたり、ビデオを観たり話し合いの場を設け災害時における避難方法を身に付けられるようにしています。	例年は近隣の消防署指導の下、年2回の訓練を行っています。コロナ禍の今は、職員の避難経路や建物、防災用具の位置を確認する火災図上訓練（F I G）を行っています。夜間想定訓練は検討中となっています。防災備蓄の確認も職員間で共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者の思いを汲み取り、一人一人にあった言葉かけで支えられる様な支援を心がけています。	入居者本人の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや態度で接するように心掛けています。名前は入居時から姓で呼ぶ事を基本とし、家族の希望があれば名前で呼ぶなど個々に対応し職員間で共有しています。新規の職員には、プライバシーへの配慮と本人の対応方法を説明し、情報を共有しながら統一の支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声かけをしながら本人の意思を尊重し自己決定できるような支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	共用スペースにて談話やテレビを観たり居室で休んだりできるようにし、個人のペースを大切に過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問美容を利用し身だしなみを整え、更衣の際はご本人と一緒に選び自己決定ができる様に支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	行事開催時は特別食を召し上がり、いつもと違う料理を楽しんで頂いています。準備や下膳もお願いしています。	職員が毎食手作りで提供し、調理の匂いでも五感を刺激したり、自宅で使っていた馴染みの食器も使用しています。利用者にも個人の状態に応じて配膳や下膳の手伝いをしながら楽しく食事が出来るよう工夫しています。自分で食べたい物を選択できる、バイキングなども行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量はその方に合わせた量を摂取できるよう心がけ提供しています。水分が足りていない時は途中にこまめに飲み物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、声かけをしています。介助が必要な方にはマンツーマンで口腔ケアを行います。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンに合わせて声かけ誘導を行い、トイレにて排泄ができるようその日の体調を考慮し支援を行っています。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを確認しながら、トイレでの排泄を声掛け誘導しています。羞恥に配慮して、耳元で呼びかけるようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便コントロールを一人ひとりに合わせて行っており、体操、散歩、オリゴ糖、牛乳、ヨーグルトなどの摂取を積極的に取り入れています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの体調を確認し、本人の希望やタイミングに合わせて入浴タイムを楽しくくつろいでいただけるよう支援しています。	週2回の入浴支援を行っています。各階、プライバシーが保たれる個室となっており、個々に合わせて2人介助やシャワー浴での支援もしています。入浴時は、必ず職員が体調や動きに気を付け、会話をしながら、ゆっくり入浴ができるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりに合わせ、居室やリビングで休憩したり、安心して気持ちよく眠れるようその日の体調や状況を考慮し日中の活動を考えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬時はマニュアルに沿って、職員2人対応で名前、日付など記載事項を声に出し入居者様にも確認して頂き服用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの出来ることを把握し、役に立てることはないかを考え、入居者様の気持ちにお応えできるよう取り組んでいます。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の散歩、天気の良い日はテラスを活用しお茶やお弁当を召し上がる、ドライブに出かけ季節を感じていただくなど外出することの工夫をしています。	毎日近隣の公園に散歩に出かけています。公園近くの駄菓子屋も懐かしい場所となっています。コロナ禍なので、テラスでの食事は自粛していますが、ドライブで、ポピーやひまわり、いちょうなどを見に行き、四季を感じる事が出来るよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ過によりお金を使う場所など行けない状態が続いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望があれば電話をかけていただいています。また、職員が電話を取り次いだりもします。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング、廊下などに湿度計や温度計、加湿器を設置し空調管理をしています。リビングには季節に合った絵や写真を掲示したりして居心地よく過ごせるよう工夫をしています。	事務室の前にイスを設置し、職員との会話を楽しめる空間となるよう工夫しています。リビングは入居者が職員と作成した季節の作品を飾り、落ち着いた雰囲気になるよう心掛けています。廊下の壁面は行事の際の皆の写真を飾っています。室温は気温が保たれ、修繕スタッフが定期的に施設内を管理しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間であるリビングでは、適切な距離を保ちつつ気の合う方で話ができる席の配置にし思い思いに過ごせるように工夫をしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人とご家族と話し合い、使い慣れた家具を置き思入れのある物や写真を飾ったりして居心地よく安心して過ごせるようにしています。また、地震等災害時に倒れてケガをしないよう、避難経路をふさがないように普段から注意しています。	エアコン・ベッド・クローゼット・布団が備えられています。居室には使い慣れた家具や、思入れのある手紙や写真などを飾り、家族といるような安心した空間となるよう工夫しています。入居者はできる範囲で、室内の掃除も行い、季節の衣類の交換も、家族と協力し行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員が一人一人のできること、わかることを把握し、食事の片づけや居室掃除などご自身でやっていただいています。安全をを考慮し、必要であれば職員が手伝い自立した生活を遅れるよう援助しています。		

事業所名	グループホームせや別荘
ユニット名	2F かめユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は事業所の各所に掲示しており、スタッフは常に確認することができます。法人理念とは別に、より具体的で誰もが取り組める内容で職員が共有できるよう努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し年間の行事に参加させて頂いています。ま散歩や外出時にご近所の方と気軽に挨拶、会話を交わしています。また地域の公園の枯葉掃除を入居者と共に行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で運営推進会議での集まりはないが、活動報告や事故報告等の書面を自治会にもお送りし、情報提供しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	令和3年度もコロナ禍で運営推進会議は書面開催のみとしています。ご家族や地域からのご意見や要望も記載してサービス向上に役立てています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	通常、地域密着型サービス連絡会や瀬谷区の講習会、運営推進会議等で情報共有をしていましたが、現在はコロナ感染予防の為、中止しています。必要な事項はメールにて行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	事業所で内部研修を実施し、職員に周知しています。玄関、フロアの出入り口に関しては、事業所前の環境などを鑑みてご家族の了解を得ています。現在身体拘束を必要とする入居者はいないがスピーチロック等にならないよう配慮しています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ユニット会議の時に身体拘束・虐待防止のチェックシートを使い、職員と意識の共有しています。また、職員同士が気づき、相談、改善できる環境を目指しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	関連した内容を調べ、その内容をユニット会議で説明し、職員が理解できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に至るまでは代表者、管理者、ケアマネージャーを踏まえ説明をし、施設内を見学していただいています。ご家族との十分な話し合いのもと納得したうえで契約をしていただいています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族より意見要望がある場合は、意見箱への投函、若しくは、メールでの受付をしています。その内容は、ユニット会議や専用ノートにて職員が共有できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度、ユニット会議を開催し管理者、職員は共に意見を伝える環境にあります。また普段から話しやすい雰囲気作りを心がけています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は各々のスキルアップのための研修や資格取得の受験料を負担しています。有休休暇や夏季春季休暇も取りやすい環境が整っています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	働きながらスキルアップできる環境の配慮や研修に参加できる機会を提案しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ過により同業者と交流する機会はないが、インターネットなどを活用し情報収集しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面談の段階でアセスメントに基づいて本人の意見をお聞きしています。フェイスシートや基本情報、ご家族の意見を聞きながら安心して生活ができる環境づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談時、ご家族の意見をお聞きし困りごとの解消に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設見学や面談の時に入居者・家族の思いを聞き、必要としている支援を見極め、良いケアに繋がるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活の中で出来る家事やレクリエーションを通して提案し協力して頂いています。すべてのことに手を貸さずシーツの交換や洗濯物を干すときは、手伝って頂けるようお声掛けしその日の生活を共に過ごしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナの為、直接は会えませんが、季節の変わり目では衣替えの物を持参して頂いたりして、ガラス越しでの面会をしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で面会時間も少ない為、遠方の家族や友人へは絵手紙を書いて、関係が途切れないよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お互いにコミュニケーションが取れるよう配慮し、席の配置やレクリエーションを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了であっても家族より相談などあれば必要に応じて支援しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一番楽しみなご家族との面会が、ガラス越しで、もどかしい思いをされていたと思います。電話での連絡、時節のハガキのやり取り等で家族との絆を感じて頂いていました。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居されて皆様長くなっていらっしゃるの、入居前の暮らし方は現在の生活に溶け込んでいらっしゃいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出来る事シートは、縮小し必要なことだけにし、職員も取り組みやすくしました。月1回のユニット会議で状態の変化を確認し、やりすぎない、やらなさすぎない介助を目指しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のユニット会議で改善する課題は話し合います。又すぐに行っていく方がいい課題などは当日の職員でのショートカンファで決め、申し送りノートで周知してもらい、計画書にプランとして挙げていきます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の記録は出勤したケアワーカーが目を通し、分からないことは聞きながら情報を理解し共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の体調を考慮し、往診日でなくても医療へ報告し往診が受けられます。本人や家族の状況を把握し、入退院や特養のご案内等、出来る限りの支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源は近隣の公園を散歩に使わせて頂いています。コロナ禍で催し物がすべて中止になっている中、近隣住宅地の公園は欠かせない毎日の散歩で歩行の筋力低下防止にも役立っています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	7月から訪問診療クリニックが代わりましたが、システムがきちんと出来上がっている医療法人なので、移行もスムーズに出来、適切な医療もスムーズに受けられています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師、クリニックの看護師共に報告し、情報共有できるようにしています。クリニックの看護師には時間外でも連絡ができ、必要なら医師に連絡して適切な判断と指示を仰げるようになっていきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院については職員が付き添います。その後はコロナ感染予防のため、病院側で面会中止となっていて、入院中の様子、リハビリの様子などは退院が決まってから1度だけ病院から呼ばれて行きました。他は電話連絡となっています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ホームでは現在面会はガラス越しで行っています。終末期の在り方はご家族と話し合い事前に面会の連絡を頂き出来る限りの感染予防対策をして頂いてから、大切な時間を居室で過ごして頂くようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時に備え、マニュアルを作成、連絡網は電話の側に掲示しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、コロナ禍に対応した避難訓練を実施しています。また大きな地震も起きていることから地震発生からの火災等想定訓練を取り入れています。新しい職員が入ったときはその方に積極的に訓練へ参加して頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排便の有無の確認等は大きな声にならないよう配慮しています。本人の思いを傾聴し、一人ひとりにあった言葉かけで安心できるよう支援しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の発言や表情から思いをくみ取り、時には自己決定できるような働きかけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	散歩やレクリエーションは本人に意思決定して頂き行っています。また、拒否があっても時間をずらしたり、職員を代えて再度お誘いしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日の洋服選びや月に1度の訪問美容では本人の意見を取り入れて支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の出来る所を活かし、職員は食事の準備や後片付けを会話を楽しみながら一緒にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日、一人ひとりの食分量、水分量をチェックし、本人の体調に合わせて十分な栄養バランスを摂れるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	全員が気持ちよく、拒否しないような言葉かけにて誘導をし、磨き残しがないよう口腔内のチェック等させて頂き、清潔を保持しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を職員が把握、共有し、時間が空いていたり、表情や動作の変化がみられたら、お声掛けします。失敗がないよう排泄の自立へ向けた支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量や食事の調節を行ったり、体操や散歩など体を動かすことを取り入れています。また、医師と相談しながら排泄コントロールを行い、便秘予防に努めています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	順番に入浴して頂きますが、入浴回数が偏らないように気を付けています。また失禁などで急な入浴が必要でも対応しています。会話を楽しみながらゆっくり入浴して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	傾眠されるかたには声掛けして自信の意思をお聞きし、ベッドで休んで頂いています。週に1度リネンを交換し、カーテンや空調の調節をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	マニュアルに沿って2人対応にてチェック、服薬者は本人と名前を声出し確認しています。トロミを付けたり、残さず飲み込んでいるか確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事の盛り付け、食器を洗う食器を拭くなどの家事手伝いをはじめ、散歩やレクは入居者の意見をお聞きしながら決定しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナの為、自粛はしていますが、入居者、職員ともワクチン接種が済み、時期や密を避けつつ、ひまわり畑や富士山を見に近場へドライブへ出かけています。毎日、町内の公園への往復をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ禍で買い物等、施設へは行っておりません。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望があれば電話をかけていただいたり、ご家族からも頂戴した場合は、プライバシーを確保しつつ、スムーズに終わられるよう支援します。レクの一環として、季節ごとにハガキを書いて切手を貼り付けポストへ出しに行く事もしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	部屋やリビングの温度、湿度に気を付けています。トイレや入浴後の風呂場は、次に使う方が不快にならないよう清潔を保っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでは個々にテレビや雑誌を見たり、気の合う方同士で会話を楽しんでいます。職員が盛り上げ、レクリエーションをしたり、廊下ではベンチに腰掛けて壁に貼られた写真や季節の飾りを見てのんびり過ごしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具、小物写真など持ち込み、本人らしい空間作りを心がけています。お花や鉢植えを置かれ、毎日水やりを楽しまれている入居者もおられます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員は本人の「出来る」「分かる」ことを把握し、難しい場面では側で見守りながら自立支援へつなげられるよう支援します。		

2021年度

事業所名 グループホームせや別荘

作成日：令和4年 2月 28日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍で自治会の交流や地域での活動が制限され、交流が減少した。毎年代わる役員の方と住民の世代交代等入れ替わる環境で認知症施設へのご理解を得て地域交流を継続していく。	地域での自治会等と連携した、認知症の啓発活動や生活支援活動を実施する。	認知症施設での暮らしぶりを知って頂くよう、各月で発行している「別荘だより」を回覧して頂いたり、消防・避難訓練などの活動を見学出来るようなコロナ禍の対策を取り、実行していく。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月